

タイムリミットは1ヵ月弱—富士山、求められる無電柱化



↑美保街道からの眺め 静岡新聞より

2013年6月26日、日本中が歓喜の声に包まれたのを覚えていますか？ この日に、標高3,776メートル、国内最高峰富士山が、ユネスコの世界文化遺産に登録されたのです。1993年12月法隆寺地域の仏教建造物の登録が最初となった、日本の世界遺産としては17番目。しかし、早くも富士山が世界遺産でなくなる危機に立たされているということをご存知でしょうか？ 実は、富士山の世界遺産登録はあくまで「**暫定**」なのです。

国際記念物遺跡会議(International Council on Monuments and Sites)、通称**イコモス**というNGOが存在します。

この組織は、文化遺産候補に関して調査・評価を行い、世界遺産委員会に対して、その文化遺産候補が世界遺産として適当なものか勧告を行っています。つまり、世界遺産登録最後の関門となる機関なのです。そのイコモスが2013年4月30日に富士山の世界文化遺産登録を適当と勧告、世界遺産登録が事実上決まりました。ところが、その世界遺産登録には、ある条件が付けられていました。イコモスは文化庁、静岡県及び山梨県の世界遺産推進課に対し、富士山を取り巻く様々な課題を指摘し、「**保全状況報告書**」を提出するよう迫ったのです。

イコモスが指摘した課題の中には、たとえば来訪者管理、噴火などを想定した防災、景観の保全などがあります。そして、景観に関する具体的な問題点の一つとして、**電柱による景観の阻害**が挙げられているのです。実際、ほかの国の世界遺産、特に霊峰など神秘的な世界遺産の周辺では殆ど電柱は立っていないにもかかわらず富士山の周辺には乱立しているというのが現在の状況です。提示した課題をクリアするため、たとえば山梨県がマイカー規制を行うなど、主に来訪者管理を目的とした対策が行われています。その一方で、無電柱化についてはほとんど触れられてきませんでした。



↑ドレスデン・エルベ渓谷

もしもイコモスが提示した課題をクリアできなければ、富士山が「**危機遺産**」リスト入りする、あるいは世界遺産登録抹消、というケースも考えられます。実際に、ドイツのドレスデン・エルベ渓谷では渓谷の中心地に橋を架けたところ、景観が悪くなったため2009年に世界遺産から取り消されました。イコモスへの「**保全状況報告書**」提出期限は、**2016年2月1日**です。つまり、残り**1ヵ月弱**しかないのです。富士山が

世界遺産に登録されてから約2年半、静岡県及び山梨県を中心に、私たち日本人は様々な恩恵を受けてきました。たとえば、日銀甲府支店によると、2013年5月から12月までの富士山世界遺産登録による経済効果は194億円に上るそうです。

しかし、今まさに、電柱のせいでその恩恵をこれ以上受けられなくなる危機に、今私たちはさらされているのです。そうならないためにも、私たちも、情報発信などにより、富士山が世界遺産であり続けられるよう努力していきます。

「美空」に載せてほしい事、調べてほしい事等ありましたら info@nponpc.net までお送り下さい！
皆様のご意見、お待ちしております！tel:06-6381-4000 Fax: 06-6381-3999(※番号変わりました)

日本の空を、安全・安心で美しく！

美空 ~MISORA~

第87号

発行日:2015年12月25日

発行者:NPO 法人電線のない街づくり支援ネットワーク
理事長 高田 昇

【活動報告】 ■理事会 11月18日(金)18時~COM 計画研究所

【技術開発委員会】伊津理事:11/4に事務局長と古河電気さんとで寒地土木との検討会に参加。配管の凍結についてNPOに調査依頼。断線の有無などを3日間程度で調査予定。結果は来年1月までに報告予定。

井上理事:日本道路会議に参加。

【世論形成委員会】高田理事長:時勢に乗っている、次の手を打っていくことが必要。

【事業協力委員会】井上事務局長:11月10日無電柱化の日シンポジウム開催。市区町村長の会との共催企画を早期に提案する必要性あり→東京・大阪で勉強会をしてはどうか?12/13土木学会景観・デザイン発表会に出席予定。11/12朝日放送『キャスト』にて無電柱化の事が放送。東京事務局で学生ボランティアがお手伝い予定。

高田理事長:百舌鳥(もず)・古市古墳群についての働きかけの提案
低コスト委員会は現在とりまとめ中で年内発表予定

■東京活動委員会 11月29日(木)18:10~ 経団連会館 C5会議室

審議案:無電柱化を推進する市区町村長の会との共催事業を考えている。大阪では高田理事長より東京と大阪で勉強会をする案が出ている→行政にニーズを聞くべき(葛城市市長などに)

【川越街並み視察ツアー】高山理事:視察の企画を送ったので確認してほしい。日程をきめるだけ。日程を1月中旬以降で事務局長と5日程度あげて配信する。それで日程を決める。

【寒地土木との打ち合わせについて報告】伊津理事:浅埋になったときのケーブル導通寒地土木研究所が中央コンサルタントに発注。NPOは物品供給

【札幌支部】来年の4月開設目標で動いている。年明けにも支部開設の案内を作るようにする。

【岡山県浅口市の相談事項】民間への無電柱化の補助金助成要綱を作りたいという要望→高山理事から街並み景観計画に関わる資料を提出



↑12/22日 理事会の様子



↑12/15日 東京活動委員会の様子

◇次回理事会日程 大阪/1月29日(金)18時~ COM 計画研究所
東京/1月28日(木)19時~ 経団連ビル会議室

大盛況！無電柱化の日シンポジウム開催！

皆さんこんにちは！先月11月10日は無電柱化の日制定一年記念という事で、埼玉県浦和市にある浦和ロイヤルパインズホテルにて無電柱化の日シンポジウムが行われました。

今回のイベントでは東京大学大学院教授の松原隆一郎先生の基調講演、そして様々な組織・団体の代表者によるパネルディスカッションが行われました。どちらも今一度無電柱化の意味や大切さを改めて考えさせられる内容でした。

1 基調講演『無電柱化まったなし』

今回の松原氏の講演で主に話されたテーマは4つありました。1つ目はなぜ「無電柱化」なのかです。2つ目は電線類地中化計画の歩みです。3つ目はなぜ、無電柱化計画は進まないのかです。そして4つ目はこれから無電柱化をどう進めるかです。無電柱化について詳しく知っている人にも、あまり詳しくない人にもどちらにとっても為になる講演でした。



↑シンポジウムの様子

2 激論、無電柱化パネルディスカッション

今回のパネルディスカッションでは高田理事長をはじめとして、無電柱化民間プロジェクト実行委員会の幹事長でもある松原氏、小江戸川越観光協会会長の条原氏、モルガン・スタンレーMUFJ証券のチーフ・エコノミストであるロバート・フェルドマン氏、春日部市の石川市長、埼玉県交通安全母の会連合会会長の小林氏の計6名が熱く持論を語ってくれました。



↑シンポジウムの様子

【高田理事長】

高田理事長はコーディネーターを務めつつ、交通安全や防災、更には離島における無電柱化の状況について話題提供されました。交通安全の面では、事故の件数の多さや道路の歩幅が狭まっていることによる危険性について実際に起こった具体例を踏まえつつ話していただきました。

【松原氏】

松原氏は防災面から見た電柱・電線の存在による課題と、2点目は行政の負担度から見た、無電柱化が進まない現状です。海外との比較によって、何故日本の無電柱化が進まないのかという事では、原因の1つに電線地中化の費用負担方法を挙げていました。日本が電共方式の場合、電線管理者が約3分の1の費用負担なのに対して、道路管理者が約3分の2という結果でした。欧州の国々では電線管理者が全額を負担しているという結果になっています。日本の方式では行政が負担する額がかなり多く無電柱化が進まないのは無理ありません。

日本の電柱の現状について感じる事を1500字程度で書いてお送り下さい、掲載させていただきます。自己紹介(お仕事、住所等)と顔写真を添えて下さい。お待ちしております！事務局

電線地中化に関するコラム・情報を月2回メールマガジンで配信しています！

ぜひこちらまで登録下さい！ → <http://www.mag2.com/m/0000266000.html>



【条原氏】

条原氏は地元の観光協会会長としての立場から無電柱化を行う事によって実際に川越市の観光客数が約200万人から600万人まで上昇したという、実例を披露しつつ、景観の点から見た無電柱化について話されました。



↑川越市蔵造りの街並み

【フェルドマン氏】

フェルドマン氏は「高い整備コスト」と「低い施工性」について話題を提供。また、経済人であり外国人であるという今回の登壇者の中では異色の立場であり、無電柱化の経済効果が見えにくい点や、そのため無電柱化が進まない現状を客観的な立場から鋭く指摘していました。

【石川市長】

石川市長は事業者の立場からこれまでの市の具体的な無電柱化の取り組みについて語ってくれました。また、市長自身が無電柱化の実感している効果について、例えば、防災やスッキリとした街並みになるという点、さらには市民が自分達の街に対する愛着が高まった、と感じている点もあるなど話されました。



↑無電柱化された春日部大通り

また、無電柱化に対する課題についてコストや工期、地上機器の設置場所などを挙げていました。市は幅広く様々なサービスを提供しなければならないため、コストの削減や工期の短縮化などは官民一体となって取り組まなければならない重要な課題だと考えておられるようです。

【小林氏】

小林氏は埼玉における市民、そして交通安全の普及に関わり、携わってきた立場から歩道や車道を妨げる電柱の課題など、例として小林氏自身の自宅の前にある電柱の話をお話ししながら、主に電柱・電線の安全面における課題について話していました。

【まとめ】

最後に高田理事長が、無電柱化を推進するには「技術改革、意識改革、制度改革」の3つが必要と総括。「無電柱化推進法の日も早い制定を要望します」とパネルディスカッションを締めくくられた。

今回のシンポジウムは無電柱化についてよく理解している人にも、これから理解していこうという人にも非常にためになるシンポジウムでした。来年の無電柱化の日にはどのようなイベントが行われるのでしょうか？更なる無電柱化の流れが広まる中、来年も楽しみです。

最新情報はHPで <http://nponpc.net/> フェイスブック <http://www.facebook.com/NPONPC>